

8月中旬、北軽井沢の山荘で、夜の灯火に誘われて室内に入ってきた蛾です。全体に黒褐色で、前翅には灰白色から淡褐色の波状の帯が横切り、黒っぽい地色との対比がよく目立ちます。翅は幅広く、どっしりとした姿をしています。これらの特徴から、ヤガ科（夜蛾科）カラスヨトウ亜科（烏夜盗亜科）の「オオシマカラスヨトウ（大縞烏夜盗）」の可能性が高い個体です。

オオシマカラスヨトウは本州などに分布する蛾で、成虫は夏から秋にかけて現れます。夜行性で灯火にも飛来するため、北軽井沢で8月中旬の夜に室内へ入ってきたという状況も、この蛾の生態とよく一致します。「カラス（烏）」の名の通り黒っぽい蛾ですが、よく見ると翅には褐色や灰白色の複雑な濃淡があり、なかなか味わい深い模様をしています。

ただし、よく似たナンカイカラスヨトウ（南海烏夜盗）などの近縁種がいるため、この写真だけでの断定には少し注意が必要です。オオシマカラスヨトウでは腹部側面に白っぽい縞模様が見られることが、近縁種との重要な識別点になります。今回は背面からの写真なので腹部を十分確認できませんが、翅の模様や体形、さらに北軽井沢という場所と8月中旬という時期を総合すると、オオシマカラスヨトウが有力でしょう。

昼間にはなかなか気づかない蛾たちも、夜になると山荘の明かりを目指して姿を現します。灯火に迷い込んだ一匹の蛾からも、北軽井沢の森で夜間に活動する昆虫たちの豊かな世界を垣間見ることができます。

（2026年8月中旬／北軽井沢）

